

別紙

温室効果ガス排出削減計画

氏名	(法人にあっては名称) 株式会社セラテクノ		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 673-0037 兵庫県明石市貴崎5丁目11番70号	
本票作成	部署名：株式会社セラテクノ 技術部 備前技術グループ				
主たる業種	分類コード	2	1	業種名：窯業・土石製品製造業	
事業の概要	1) 事業内容：耐火物の製造、販売、2) 生産量：18,309 t (平成21年度) 3) 従業員数：82人				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	備前工場		岡山県備前市穂浪2835-7	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

計画期間	平成22年度 ~ 平成26年度 (5 箇年度)								
削減目標	いずれかを選択	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	目標削減率 5.0 %	目標区分	20%以上	20~15%	15~10%	10~5%	5%未満
		<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準						○	
温室効果ガス排出量	基準年度 (平成21年度)			目標年度 (平成26年度)					
	5,879 t CO <sub>2</sub>			5,585 t CO <sub>2</sub>					
基準年度の主な工場等の排出量	番号	工場等の名称		基準年度 (平成21年度) の排出量					
	①	備前工場		5,879 t CO <sub>2</sub>					
				t CO <sub>2</sub>					
				t CO <sub>2</sub>					
				t CO <sub>2</sub>					

※ 「計画期間」欄には、5箇年度以内で特定事業者が定める期間を記入する。

(原単位基準の削減目標を選択した場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容		原単位当たり排出量	
	総生産量 (CO <sub>2</sub> 排出量と密接な関係を持つ)		基準年度	目標年度
	基準年度5,879t CO <sub>2</sub> /18.3千t = 321t CO <sub>2</sub> /千t 目標年度5,585t CO <sub>2</sub> /18.3千t = 305t CO <sub>2</sub> /千t		321 t CO <sub>2</sub> / ( 千t )	305 t CO <sub>2</sub> / ( 千t )

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値 ( 年度)	達成率 (%)
指標の状況				

【目標削減率設定の基本的な考え方】

・平成22年度は平成21年度に比べ増産傾向にあるものの、今後中国輸入品へのシフトの話もあり、平成26年度の生産量については予想がつかないため、平成21年度と同量として計算した。今後5年間は生産量の変動が大きく、総排出量基準より原単位基準の方が実態に即した管理ができると考えた。  
 ・省エネ法により、以前から年平均1%のエネルギー使用に係わる原単位削減に取り組んできているので、CO<sub>2</sub>削減についてもこれに準じて設定した。

**【目標削減率達成のための推進体制】**

・組織体制は、社長（環境経営に関する統括責任者）、常務会（環境審議会を編成）、環境管理責任者、環境事務局、各部署で編成されている。平成20年4月にEA21を認証取得し、省エネ等のテーマに積極的に取り組んでいる。目標値を設定し、毎月EA21会議を実施し、実績報告と対策の検討を行っている。

**【排出量削減のためのこれまでの主な取組】**

工場等の名称	取組内容
備前工場	1)実施時期：平成19～21年度。2)実施内容：①燃料の省エネ（車両を除く）－省エネ意識・運動展開、トンネルキルン焼成管理の強化、暖房ストーブ節約。②燃料の省エネ（車両）－アイドリングストップ・急発進・急停止防止の徹底、燃費管理の実施。③電力の省エネ－高効率・省エネ機器の採用、電灯数・配置の見直し・適正化、煉瓦成形機Aの油圧ポンプインバーター化、コンプレッサーのエア漏れ低減、プレス機の油圧ポンプ圧力調整。エアコン設定温度の調整、メンテ・集塵機差圧管理の標準化。3)効果：平成21年度は平成19年度比で0.6%の原単位削減。ただしCO <sub>2</sub> 総排出量では減産の影響もあり21.4%削減。

**【計画期間中に目標削減率を達成するために実施する措置】**

工場等の名称	措置内容
備前工場	1) 実施予定時期：平成22～26年度。 2) 実施内容：①燃料の省エネ：トンネルキルンの計画生産、間欠操業による燃料使用量低減。②電力の省エネ：水銀灯400Wをメタルハライドランプ200Wに交換(8灯/年)、煉瓦成形機Bの低圧ポンプインバーター化。 3) 効果：原単位で5%削減を目標とする。

**【森林保全等吸収源対策への取組計画】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【再生可能エネルギーの導入計画】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【その他特記事項】**

・製造時にエネルギー消費量の少ない品種の生産比率アップ（焼成品の不焼成品化、定形品の不定形化など）。